

札幌市におけるウォーカブルシティの推進について

1 背景・目指す未来

- 国土交通省では、車中心から人中心のまちづくりへと転換する「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりを推進しており、札幌市も「ウォーカブル推進都市」に登録している(2019年)

- 「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン※1」に掲げる「ウェルネス(健康)プロジェクト」においても、身体的健康の観点からウォーカブルシティの推進に取り組むこととしている。(市長公約にも明記※2)

※1…「居心地が良く歩きたくなり、多様な活動ができる・滞留したくなる空間の形成に向けて、都心・地域交流拠点・住宅地それぞれの特性を生かした空間の整備を進めます。」

- 居心地が良く歩きたくなるまちなか(ウォーカブルシティ)を行政のみならず、民間企業や大学、地域住民とともに形成することにより「健康寿命の延伸」、「安全・安心な歩行環境」、「交流・にぎわい創出」を目指す。

2 「(仮称)札幌市ウォーカブルビジョン」の策定

- 産学官民協働によりウォーカブルシティ推進を図るため、令和7年度末に策定予定。

ビジョン内容(案)

- ① 札幌市におけるウォーカブル推進の意義・目的の整理
- ② ウォーカブル推進に資する効果的な手法、モデルケースの紹介
- ③ 都心、地域交流拠点、住宅市街地における「目指す姿」の整理
- ④ 官民それぞれの役割を整理した推進体制や支援制度の紹介



※2…「都心の歩行環境の改善など、日常生活の中でも歩きたくなるまちづくりを進めます。」

3 他都市事例

○【姫路市】ウォーカブル推進計画



— 理想のシーン1 大手前通りエリア —

- ・エリアごとの「理想のシーン」を設定
- ・政策的効果の整理(長期、多様な効果)
- ・課題と潜在力の整理
- ・実施方針(短期、中期、長期)
- ・実現への道筋を整理
- ➡札幌市においても「目指す姿」を可視化予定

○【さいたま市】大宮駅周辺ウォーカブル推進戦略



- ・エリアごとの「目標の姿」を設定
- ・※3…「わたしの時間がみちているまちの姿」と定義
- ・推進戦略策定に向けて、空間活用コンペを実施
- ・コンペ受賞者と実践プロジェクト会議を組織
- ・官民協議を経て、推進戦略を取りまとめた
- ➡札幌市においても効果的な手法検討のため「公募型実証実験」を実施予定

4 札幌市におけるウォーカブル推進の意義・目的

- 全市的にウォーカブルを推進するにあたり、一般市民・民間企業にも伝わるコンセプト(案)として、以下を設定。

「誰もが自然と歩きたくなる“歩かさるまち さっぽろ”」

～居心地の良いまちを実現し、歩行者・来訪者の「健康」、「安全・安心」、「交流・にぎわい」向上を目指す～

○「健康寿命の延伸」

- 【課題】①札幌市民の健康寿命は、他の政令指定都市と比較して低位(22政令市中 17位※4)

※4…2016年時点。男性 71.34歳、女性 72.89歳

- ②積雪寒冷地であり、冬期間の外出が減少する傾向(秋期と比較して冬期の外出率が約16%減少※5)

※5…第4回道央都市圏パーソントリップ調査より。65歳以上の高齢者においては約25%減少

- 【方向性】①居心地が良く歩きたくなる公共的空間創出等による歩行促進

→リラックス効果、脳や免疫機能の活性化、体脂肪低下や代謝の向上等の健康増進効果が証明

医療費抑制効果の見える化も可能(1日1歩あたりの医療費抑制効果=0.065~0.072円)※6

- ※6…「まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量調査のガイドライン概要(国土交通省)」

②冬でも歩きたくなる仕掛け(目的地の創出、歩行空間の魅力化・安全化)による外出促進

○「安全・安心な歩行環境」

- 【課題】①こどもや子育て世代の目線に立ち、こどものための近隣地域の生活空間を形成する「こどもまんなかまちづくり※7」が求められている

※7…「こどもや子育て世帯の目線に立ち、こどものための近隣地域の生活空間を形成する「こどもまんなかまちづくり」を加速化、こどもの遊び場の確保や親同士・地域住民との交流機会を生み出す空間の創出などの取組の更なる拡充を図っていく必要がある(「こども未来戦略方針(R5.6.13閣議決定)」)

- ②高齢者や車椅子の方のみならず、誰もが円滑に移動できる環境が求められている(ユニバーサル社会)

③脱炭素社会実現や、自動車を運転することができない方でも安心して移動できる環境を整備する必要性

- 【方向性】①通学路や子育て支援施設等周辺の歩車分離、バリアフリー化、交通安全対策などによる安全化・魅力化

②誰もが円滑に移動することができるバリアフリー経路の整備促進、Universal MaaSの推進

③自転車や公共交通機関と連携した「自動車に過度に依存しないまちづくり」

○「交流・にぎわいの創出」

- 【課題】①人口減少局面における小規模商業施設の維持困難

②地域コミュニティの希薄化による住環境の悪化

③観光消費額の大きい海外客の誘致を進める必要性(「第2次札幌市観光まちづくりプラン」より)

- 【方向性】①ウォーカブル空間化(歩行者空間化など)による近隣商業施設の売り上げ向上※8

※8…ニューヨーク・タイムズスクエアの歩行者空間化では売上増加率47%を記録

- ②公共的空間の柔軟な活用(規制緩和、支援制度)による地域主体のまちづくり推進

③観光案内サインの充実をはじめとする海外客の戦略的誘致促進

5 今年度のスケジュール

